

今日から始めよう

# ペット動物の災害対策

東日本大震災の教訓を踏まえて

猫 編



一般社団法人 Shizuoka Animal Care Society  
静岡県動物保護協会

# 災害が起きたとき・・・



災害はある日突然起ります。

その時、猫と一緒にどう避難し、避難所などでどう暮らすのかイメージしてみましょう。

## 1 猫を連れて避難（ペット同行避難）

猫はクレートやキャリーバッグに入れて、すみやかに避難します。飼い主が外出中に発災した場合は、飼い主に代わって知人や近所の方が猫を保護してくれるかもしれません。



▶ペット同行避難者の受付（ペット同行避難訓練）



▶同行避難したペット（ペット同行避難訓練）

ポイント

- 人と猫の安全の確保
- クレートやバッグに入る
- 家族で連れて避難できる頭数であること
- 飼い主不在時に発災した場合の想定

## 2 避難所に到着

避難所は多くの被災者が集まります。老人や子供、幼児、病気の方、アレルギーの方もいます。病院から避難してきた患者さんたちもいるかもしれません。



▶小学校の避難所〔仙台市〕<sup>1)</sup>



▶避難所の様子〔青森県〕<sup>2)</sup>

ポイント

- 多数の人と接する生活
- 人と猫の衛生の確保

### 3 避難所での生活

公衆衛生上の判断や病人への配慮で、人と動物の居場所を分ける「棲み分け」が行われます。猫は専用の飼養場所で、一日のほとんどをクレートやケージの中で過ごすことが多くなります。基本的には飼い主自身が猫の世話をしますが、状況によっては知人やボランティアに世話を頼まなくてはならないかもしれません。



▶新潟市避難所の動物用避難施設 [新潟県]<sup>2)</sup>



▶避難所（ヒュッゲパレットふくしま；郡山市）のペット収容用テント [福島県]<sup>2)</sup>



- クレートやケージでの生活
- 他人と接する生活
- 他の犬猫との集団生活

### 4 仮設住宅での生活

隣近所と密接した集合住宅での生活になります。猫は室内で飼う規則になることがあります。ペットを飼える区域では、通常より猫の飼養密度が高くなることがあります。



▶仮設住宅 [仙台市]



▶仮設住宅におけるペット飼養の様子 [岩手県]<sup>2)</sup>



- 集合住宅
- 室内飼養
- 近隣との距離

# 災害への備え

## ① 室内飼養

猫が外に出かけているときに災害が起きたら、猫の安全を確保することもできませんし、避難のとき連れて行くこともできません。

猫を室内で飼うことは、普段から感染症や交通事故等から猫の健康と安全を守ると同時に、災害への重要な備えでもあります。



## ② 一緒に避難できる頭数であること

人ひとりが運べる量は限られています。

複数飼育する場合は、猫をキャリーバッグに入れて、一緒に連れて避難できるのは何頭か考え、適正な飼育頭数にしてください。

## ③ 不妊去勢手術による繁殖制限措置

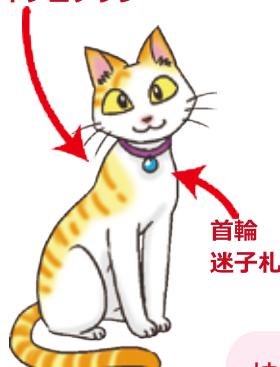
避難所や仮設住宅での多くの猫と一緒に生活では、不妊去勢措置をしていない猫は、ストレスを感じたり、トラブルの原因となることがあります。

災害で飼い主とはぐれて放浪している間に、妊娠、出産すると、母体への負担になるだけでなく、野良猫の増加の原因となり、復興や帰還に際して大きな問題になっています。

特別な理由がなければ、不妊去勢手術による繁殖制限措置を検討してください。



マイクロチップ



## ④ 飼い主明示とマイクロチップ

外から誰が見てもわかる迷子札をいつも首輪につけておきましょう。

さらに、マイクロチップを入れておくと、首輪が外れてしまった場合でも飼い主が分かります。

2重3重の対策をとっておきましょう。



被災地では多くの猫が行方不明になりました

▶仙台市動物管理センターに掲示された  
ペットの失踪届 [仙台市]<sup>2)</sup>

## ⑤ 猫の健康管理と写真つきの記録手帳

避難所や動物保護シェルターなど、人や動物が集まるところでは、各種ワクチン、ノミ・ダニなどの寄生虫の駆除と予防をしておくことが、衛生を保つために必須です。

ワクチン接種状況や既往症、治療中の病気や服用している薬などを手帳に記録して、同行避難の際に持ち出しやすいところに準備しておきましょう。

- ・飼い主の連絡先
- ・猫の情報
- ・猫の写真（特徴が分かる猫の全身写真、飼い主と書いた写真）
- ・ワクチンの記録
- ・寄生虫予防の記録
- ・既往症など
- ・服用している薬など



## ⑥ キャリーバッグやクレート（ケージ）に慣れさせておく

避難の時はもちろん、避難生活中はキャリーバッグやクレート（ケージ）で過ごすことが多いです。

キャリーバッグやクレート（ケージ）に入ることを嫌がらないだけでなく、安心してくつろげる場所にしておけば、避難生活のストレスを少なくすることができます。



★キャリーバッグやクレート（ケージ）に慣れさせる方法は・・・6ページ

## ⑦ トイレのしつけ

猫と同行避難して避難所で生活することになれば、猫は1日のほとんどをケージの中で過ごし、排泄は猫用トイレを使うことになります。

屋外での徘徊や排泄が習慣になっていると、様々なトラブルや猫のストレスの原因となってしまいます。



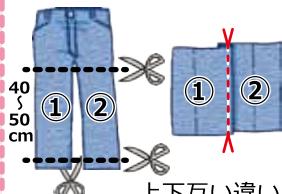
爪を立てても大丈夫！飼い主の匂いもして安心だニャ！！

### 古ジーンズで作る 猫用緊急避難袋

材料 不要になったジーンズ（デニムパンツ）1本  
薄めの木綿（ワイシャツなど）10cm 幅×90cm 2枚  
綿紐 直径5mm程度×1m 2本

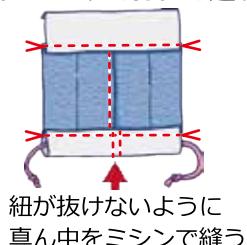
#### 作り方

①ジーンズを裁断して2枚つなげる



上下互い違いに合わせて縫う

②上下に薄めの木綿などを縫いつけて綿紐を通す



紐が抜けないように真ん中をミシンで縫う



完成 !!

移動の時は頭も入れた方がおちつくニャ



出典：日本捨猫防止会

# キャリーバッグ、クレート（ケージ）に慣れさせる

キャリーバッグやクレート（ケージ）を安心できる場所にして、喜んで中に入るようになるトレーニングです。

## ■用意するもの

- ・キャリーバッグ又はクレート（ケージ）
 

大きさ…猫が入って方向転換できる  
立ち座りができる  
大きすぎない方が安心する  
外が見えない方が安心する  
材質…硬いものの方が災害の時安全度が高い
- ・大好きなおやつ 小指の爪ほどに小さくちぎったもの
- ・おやつやフードを入れたボウル

### ここがポイント

クレートやケージが既に動物病院などイヤなことに結びついてしまっている場合は、形や材質が似ていないものを用意します



## ■ステップ 0

トレーニングを始める数日前から、猫がいつもいる部屋に扉を開けた状態で置き、猫が自由に臭いを嗅いだりできるようにしておきます。

クレートのそばにいたり臭いを嗅いでいるときに驚かせないようにします（大きな音などをたてない）。

### ☆猫が空腹のときにトレーニング開始！

## ■ステップ 1

### 1 猫の鼻先におやつを出して、クレートの入口に誘導します



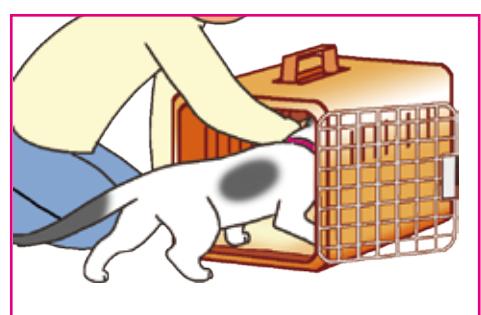
### 2 そのままクレートの中に誘導します

クレートの中におやつを投げ入れてもいいでしょう。



### ここがポイント

必ず猫が自分から入るようにします。  
なかなか入らなくても絶対猫を押し込んではいけません。数分試して上手くいかないときは、時間や日を開けて再トライしましょう。  
しつこくしないことが大切です。



### 3 クレートの中で手に持ったおやつを食べさせます

「いいこだね」などのやさしい褒め言葉をかけましょう

#### ここがポイント

ここで扉を閉めたくなりますが、まだ閉めてはいけません。一度でも「閉じ込められた」と感じたら、クレートを嫌いになってしまいます。



### 4 おやつで誘導してクレートの外に出し、また中に誘導して中で食べさせます

☆1~4を繰り返してクレートの中に入ることに抵抗がなくなったら次のステップに進みます

#### ステップ2

### 5 おやつやフードを入れたボウルを入れてクレートの中で食べさせます

#### ここがポイント

「クレートの中ではいいことがある（おいしいものが食べられる）」と思わせます。

クレートの中で安心して食べられるようになるまで数日かかることもあります。あせらず慣らせましょう。



### 6 クレートの中で安心して食べるようになったら、食べている間に扉を静かに閉めます

扉が閉まっている時間は数秒から始めます

#### ここがポイント

大きな音で驚かせないように注意しましょう。



### 7 食べ終わる前に扉をゆっくり開けます

#### ここがポイント

「閉じ込められた」と感じさせないように食べ終わる前に扉を開けましょう。



### 8 5~7を繰り返して扉が閉まっている時間を少しづつ長くしていきます

網のケージを使用するときや気が散るときは、布をかけて外を見えなくするといいでしょう

クレートは扉を開けた状態で部屋に置いておき、中に猫の好きな敷物を入れて、くつろいだり眠ったりする「安心できる場所」にしましょう。

罰として閉じ込める場所には絶対してはいけません。

ここは  
快適で  
安心だニャ



# 猫のための防災グッズ



緊急避難時に持ち出せる量は限られます。

猫の命や健康にかかる物が最優先です。

療法食や日常的な服薬が必要な場合は、非常用の備蓄について、かかりつけの獣医師と相談しておきましょう。

## ▶ 避難に必要なキャリーバッグやクレート

普段から猫のくつろげる場所として、扉を開けて部屋に置いておきましょう。

### 避難のための必需品

- ・キャリーバッグはクレート
- ・猫用緊急避難袋（p5 参照）



## ▶ フード・飲み水の備蓄

普段食べているもので保存がきくものは日常から十分ストックし、古いものから消費していくと無駄がありません（ローリングストック法）。

フードと水は普段から道路や通路に近い屋内の場所に保管しましょう（家屋倒壊時に取り出しやすい）。

### 避難生活のための必需品

- ・クレート（ケージ）
- ・フード、水
- ・（療法食、薬）
- ・食器
- ・トイレ用品



## ▶ 非常持出品（備蓄品）

命や健康にかかる物から優先順位をつけて持ち出す準備を整えましょう。

### 優先順位

- |   |  |
|---|--|
| 高 | <ul style="list-style-type: none"><li>・療法食、薬</li><li>・フード、水（最低5日分）</li><li>・食器</li><li>・猫の写真つきの記録手帳</li><li>・トイレ用品、トイレ砂</li><li>・洗濯ネット</li></ul> |
| 低 | <ul style="list-style-type: none"><li>・ブラシ・おもちゃ</li></ul>  |



## ▶ 猫仲間との連携も災害対策

近隣に住む猫仲間とは災害時の協力体制を、遠隔地に住む猫仲間とはお互いの被災時の猫の避難場所とすることなどを話し合っておきましょう。

発行者：一般社団法人 静岡県動物保護協会

〒420-0838 静岡市葵区相生町14番26-3号

電話 (054) 251-6036 FAX (054) 274-0002

<http://www.love-sacs.com/> E-mail: info@love-sacs.com

協 力：静岡県

発行日：平成28年3月

編集・デザイン：つしまみかこ